



安らかに信頼している
 ことにこそ力がある
 イザヤ書30章15節

発行所 北海の光社
 001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12
 日本聖公会北海道教区事務所
 電話 011-717-8181
 F A X 011-736-8377
 E-mail:hikari@nsskk-hokkaido.jp
 http://www.nsskk-hokkaido.jp
 発行人 植松 誠

新しい年のはじめに

北海道教区 主教 ナタナエル 植松 誠

今年の宣教標語、「安らかに信頼していることにこそ力がある」(イザヤ書三〇章一五節)の前後を読んでみますと、さらにこのみ言葉の切なく、さらには深い憐みが伝わってきます。反逆の民、けれどもこの上なく大切に思うその民に向かって告げられる言葉。

『まことに、イスラエルの聖なる方、わが主なる神は、こう言われた。「お前たちは、立ち帰って、静かにしているならば救われる。安らかに信頼していることにこそ力がある」と。しかし、お前たちは

それを望まなかった。お前たちは言った。「そうしてはいられない、馬に乗って逃げよう」と。それゆえ、お前たちは逃げなければならぬ。また「速い馬に乗ろう」と言つたゆえに、あなたたちを追う者は速いであろう。略々

それゆえ、主は恵みを与えようとして、あなたたちを待ち、それゆえ、主は憐みを与えようとして、立ち上がられる。これは私たちに向けられている言葉だと思えます。私たちは自分の追い求める物を手に入れるため、脇目も振らずに走ります。それは、自分の

人生は自分で計画し、自分で成し遂げているという、自信だったり、祝福されているという思い違いの信仰かもしれない。「立ち止まる」という行為は、バランスを崩し、不安が沸き起り、あせりを伴うものです。今まで築いたかけがえのないものをすべて失うように思い、喪失感を覚えます。でも、信仰に生きるといふのは、自分を遥かに超えた方のまなざしの中で、限らない慈しみに覆われていることを喜ぶことです。自分の力で得たと思っている事柄を神の祝福とすることでは決してありません。走り続けているときには「安らか」ではないはずですが、自分の力で...と思つているときには「信頼」は生まれません。

八木重吉の詩にこのようなものがあります。

「わたしのまちがいったつたわたしの まちがいったつたこうして草にすわれればそれがわかる」

《草にすわる》という題の詩です。どのような状況で作られた詩であるのかわかりません。けれども、「草に座る」という行為は、一旦自分の思いを置いて、空っぽの自分を差し出すことだと想像します。このままで、このままの自分で良いのだろうか。土に生える草の上に座ることですべてが止まり、自分が何を信頼して、何を大切なこととして生きているのかを問うのでしよう。「立ち帰って静かにしているならば救われる」、それは正に「私の間違いだつた」との悔い改めであり、そこから初めて、心から安らかに、自分の力ではなく、神に信頼するという生き方に目を向けることができるところです。そこから与えらる喜びこそが、私たちの力となるのです。

安らかに信頼している
 ことにこそ力がある

イザヤ書三〇章十五節より

第二世紀宣教 二〇二〇年

日本聖公会北海道教区

北海の光725号

司祭 ダビデ 藤井八郎 書

—心の窓をひらひら—

福音と私(二二三三)

—今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか—

札幌聖ミカエル教会信徒

クララ 渡部 良子

【好きな聖句】

光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。

(ヨハネによる福音書一章五節)

幼児期に何を与えるか

私の両親は、札幌聖ミカエル教会で洗礼接手を受け、結婚した。父は紳士服店を営み、私たち五人の兄弟姉妹を養ってくれた。家庭はいつもお祈りが中心の、子どもの笑い声が絶えないクリスチャン家庭だった。父は、私たちと



加し、若い時代をキリスト教の影響を強く受けて成長した。

大学を卒業後、私は札幌市の公立中学校の国語の教師として赴任した。そこでは様々な子どもたちに出合った。父子家庭で、食事も十分にとっていない生徒。友達とのトラブルで、学校に来られなくなった生徒。小学校から一度も登校したことのない生徒。母親が亡くなり、急激に非行に走るようになった生徒。リストカットを繰り返す生徒。家庭的に本当に大変な生徒たちがたくさんいた。

よく遊んでくれ、たくさんお話を聞かせてくれた。母は、子どもたちに大量の食事を作り、五人分の衣服やおしめの洗濯に追われながらも懸命に私たちを育ててくれた。また、両親はとても教育熱心で、たくさんの本を与え、ピアノやバレエなどの習い事にも通わせてくれた。決して裕福な家庭ではなかったのだが、両親には子どもたちに良い教育を受けさせたい、という信念があつたのだと思う。今思い出しても、本当に幸福な家庭で私は育った。

私は、聖ミカエル幼稚園で幼児期を過ごし、日曜学校に通い、高校生になってからは日曜学校の教師、オルガンの奏楽などの奉仕を通して、子どもから青年時代をずっと教会で過ごしてきた。青年寮で行われていた聖書学習会に参

私は同僚と共に、そのような生徒たちといつも泥臭く、とことん付き合ってきた。子どもや父母とたくさん話をし、家庭訪問を繰り返し、子や親に寄り添いたいと願い、努力した。でも、どうにもならないことも多くあつた。

私は二七歳で中学校の教員である夫と結婚をした。夫は結婚を機に洗礼接手を受け、クリスチャンとなつてくれた。私たち夫婦の理想とする家庭は、私の子ども時代の家庭であつた。私たちは、共

稼ぎの忙しい家庭ではあつたが、三人の子どもたちと共に、お祈りが中心の笑いの絶えない家庭を作ることができた。そのような家庭を作ることができたのも、両親に愛され、いつも神様が共にいた私の幼児期から青年期が影響しているように思う。

だからこそ教師と、子育てを経験するうちに、私はどこかで中学校の教育に限界を感じていた。ああ、この生徒はいつたいどのように育てられたのだろう。はたして幼児期に大切にされていたのだろうか。

そんな中、私が五〇歳の時に、聖ミカエル幼稚園の園長にならないか、と言う勧めがあつた。わが子はまだ学生で、教育費がかかる時期であり、中学校の教師の仕事も面白かつたので、大変悩んだ。でも夫に相談すると「それは神様に呼ばれているんだよ。やりなさい。」と背中を押してくれた。そのようにして、私は幼児教育の世界に飛び込んだ。

「幼児期の経験は、その人の人生に大きな影響を与え

感謝 北海の光献金(敬称略)

常置委員会報告

第二回 二月一三日

《協議事項》

- 一、第七七(定期) 教区会の振り返りの件
- ・一日目の「ハラスメントに関する学習会」は内容的にと

でも良かった。

- ・意見交換が活発となるよう、一日目のプログラムなど今後の工夫が必要。

- 二、会計監査委員指名の件
- ・候補者二名を選出した。

- 三、新教区会期の常置委員会が選任する各委員長・部長

天城千恵子(秦野市)
千葉 雅夫(仙台市)

選任の件

- ・所定の委員長と部長の候補者を検討した。

- 四、阿部恵子執事・上平更執事の司祭志願の件

- ・兩名の司祭試験受験に向けて、試験要領について検討した。

- 五、二〇二〇年教区礼拝の件



主教室より

十数年前、聖ミカエル幼稚園のクリスマスで演じられた聖誕劇でのヨセフを思い出します。ベツレヘムに着いたマリヤとヨセフですが、礼拝堂いっぱいのお客様さんを前に、ヨセフは完全にあがってしまっていて、セリフも言えず、マリヤとのデュエットでも、歌うのはマリヤ独り。すると、マリヤがあきれた顔をして、並んで立つヨセフの背中を思いつき叩いたのです。

私はクリスマス物語に出てくるヨセフにいつも魅かれます。ヨセフはどこまでも脇役に徹する人。でしゃばらず、黙々とあかちゃんイエスのそばにたたずむ人

です。この役は目立ちたがり屋にはできません。黙って行動するヨセフ、しかし、その彼の存在感はとてつもなく大きいのです。

許嫁のマリヤが懐妊します。自分の子ではないことでヨセフは苦しみます。しかし、「ヨセフ、恐れず妻マリヤを迎え入れなさい」との天使の言葉に従います。つべこべ言わないで、信頼して委ねるのです。眠りから覚めるとすぐにマリヤを妻に迎えたとあり、不安で眠れないはずの夜なのに彼は委ねてぐっすり寝たというのです。逃げずにとどまり、神の計画を信じたヨセフ。たいした信仰です。

し、大事なところで舞台回しの要点を押さえています。「起きて、子どもとその母親を連れてエジプトに逃げなさい。ヘロデがその子を殺そうとしている」という天使のお告げにすぐ従います。夜のしじま、月の光の中、イエスとマリヤを連れて砂漠を進む保護者ヨセフがシルエツトに浮かび上がります。聖書の中にヨセフのつぶやきは一つもありません。そして、エジプトではヘロデ王が死ぬまで、忍耐強く待ち続けるのです。

福音書の冒頭にチラッと出てくるヨセフ、それは脇役に徹して黙って主のために生涯を献げる姿です。でも、その存在は私の心を捉えてやまないのです。

主教 ナタナエル 植松 誠

- ・日時：五月一六日(土)に実施することとした。
- 六、幼稚園・保育園園長人事に関する件

- ・主教案を聞き、懇談した。

- 七、事務所職員人事の件
- ・金内淳子副主事を一月より正職員とすることを承認した。

- 八、二〇二〇年アジア青年大会への青年派遣に伴う支出について
- ・二名を派遣することを確認。必要費用を宣教献金より支出することとした。

- 九、人事異動に関する件
- ・上記に関して懇談を行った。

堅信式受領

おめでとう

札幌聖ミカエル教会

ヨセフ 沼辺 剛

ニコル 石渡 秀子

テレサ 宮崎 野永

シモン 杉野 皓海

セシリア 井上 房子

(二月八日)

札幌キリスト教会

ベタニアのマリア

井上 千里

アイリーン 柳原 照子

ソフィア 奥村 真佑

(二月一五日)

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

二月二日(水)

午前一〇時三〇分 於 主教室聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

執事 桑山 隆

二〇一三年二月二日

司祭 ハリー・W・ハンセン

一九九六年二月八日

執事 細矢 勝司

二〇一九年二月九日

司祭 長澤 義正

一九六一年二月二日

伝道医師 ウイリアム・ウリス

ロイ・コルバン

一九一五年二月二〇日

司祭 向井 山雄

一九六一年二月二四日

伝道師 田村 均

一九七八年二月二六日

◎お願い

原稿をEメールで送付される方は、左記アドレスにお送りください。

hikari@nsk-hokkaido.jp

編集委員会より



▲苫小牧聖ルカ教会



▲新札幌聖ニコラス教会



▲札幌キリスト教会

今年生まれた赤ちゃんが幼子イエスの役で登場した降誕劇



▲有珠聖公会



▲留萌キリスト教会



▲岩見沢聖十字教会 聖誕劇



▲深川聖三一教会



▲紋別聖マリヤ教会 『子どもと一緒に捧げるクリスマス礼拝』



▲聖マーガレット教会

クリスマス 静かに眠っていたイエスさま



▲帯広聖公会 クリスマス礼拝



▲網走聖ペテロ教会

主教様自作の降誕日物語に耳と心を傾けました!



▲平取聖公会

写真で見る2019 クリスマス光景

北海道教区 23 教会



▲今金インマヌエル教会



▲北見聖ヤコブ教会

20名が飼い葉桶の前に集いました!



▲稚内聖公会



▲旭川聖マルコ教会

祝 ご降誕!



▲室蘭聖マタイ教会



▲新冠聖フランシス教会

当教会、最高齢96歳も参加しています。



▲札幌聖ミカエル教会 降誕劇



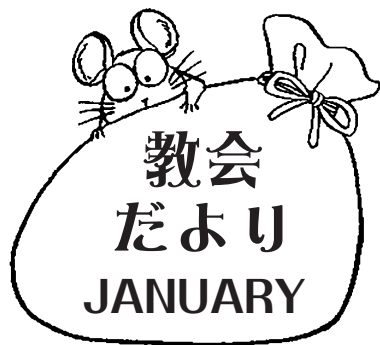
▲釧路聖パウロ教会



▲函館聖ヨハネ教会



▲小樽聖公会 12月25日降誕日



▽旭川聖マルコ教会

今年アドベントの集いを二回開催しました。

一四日に大勢の保護者を迎えて保育園のクリスマス礼拝、お祝い会、二一日には子どもクリスマス会を行いました。

二二日にはクリスマス大礼拝・祝会をしました。祝会の一番の出し物は、かつての若者達によるページェント(矢部司会者の好演出による)、その珍迷演技は、観客の皆さんに大好評でした。

二四日のキャロリングは信徒の方々が入所している施設へ矢萩新一司祭(管区事務所総主事)をはじめ少数精鋭の聖歌隊で訪問しました。入所者の暖かい拍手を頂きました。

た。

矢萩司祭の来旭により、広谷司祭を中心に「稚内クリスマス・キャラバン」が実行されました。感謝しております。

▽岩見沢聖十字教会

幼稚園では、二月二三日・一四日の二日間、クリスマスが行われる。年長の聖誕劇に保護者は感動。ひよこ組・年少中による劇では可愛い演技に思わず笑みが。

二二日、池田亨司祭司式によるクリスマス礼拝。教職員・園児・保護者も多く出席。共にイエス様のご降誕を祝う。第二部、山本悦子姉主宰「管弦楽ノエル」の演奏を楽しむ。

大晦日、令和元年が静かに過ぎて行く。来年は、二〇二〇東京五輪。競技の一部が北海道でも開催。主よ平和の祭典を祝して下さい。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

一先きにクリスマスを迎えたのが保育園。六日に降誕劇、お遊戯会。観覧した保護者は子どもたちの成長に涙する場面も。二二日総員礼拝、二四日イブ礼拝、二五日降誕日礼

拝。降誕日礼拝では、保育園

の終業式を礼拝の中で行い、子どもたちによる祈りや聖歌は教会の人々を魅了したひと時となった。帰りには教会からプレゼントをもらい笑顔のうちに保育園へ帰っていった。

一二月に入り、津田正子姉が転倒し、右肩が砕け手術。また、長年の疲労から春田裕兄も札幌で手術。病氣療養中の皆さんに豊かな癒しが与えられますように。厚岸での活動は、氷が解けてから再開します。

▽小樽聖公会

一五日(日)は礼拝後に今年最後の婦人会が開かれました。会に先立って、『イエスの言葉ケセン語訳』(山浦玄嗣)より、「永遠の命(ヨハネ三・一六)」を読み、学びました。

二四日(火) 夕方五時から

イブ礼拝・ティーパーティー、二五日(水)一〇時半から降誕日聖餐式と祝会。どちらの礼拝にも近所の方がそれぞれ来てくださり感謝。祝会では牧野時夫兄のバイオリン演奏の他、ビンゴ大会でプレゼント

トの交換会をして盛り上がり

ました。小樽も今のところ雪がとて少ないのですが、その分これからドカッと降るのだろうと思つと複雑です。

▽新冠聖フランシス教会

一二月七日(土)、マルタ本田邦子さんの逝去後一周年の記念式が、かつて勤めておられた静内のホテルにて行われました。午後からは判官館にある改葬されたご実家・後藤家の墓地に納骨されました。

今年のクリスマス礼拝は暦の關係上、二二日(降臨節第四)に行われました。久しぶりの田上さん親子も出席され、もう五年生と二年生ですって!また、初めてのお客様―浦河の富岡弘三さん―今後ともお出でになれますように。奥田貞子さんインフルで越冬入院―乞う、ご加禱

▽帯広聖公会

一日主教巡回。ローマ教皇や英米聖公会幹部による被爆地訪問などについてお話がありました。八日、永谷司祭聖餐式。教

委員会。

一八日は帯広厚生病院と藤丸デパートで、一九日は勤医協病院でキャロリングを行いました。

二二日はクリスマス礼拝と祝会、二四日はクリスマスイブ礼拝、二五日は降誕日礼拝が行われました。今年六月に阿部執事が着任されました。二〇二〇年も実り多い年であることを期待します。

▽稚内聖公会

一二月二四日、旭川より「稚内クリスマス・キャラバン」一行を迎え、数十年ぶりにイヴ当日にイヴ礼拝を行う。キャンドル・サーヴィスに続いて聖餐式。礼拝の後は上等のワインで乾杯。お汁粉、ケーキなどを囲んでお祝い会。野村学さんの手品を見、四方山話に花が咲いて、地吹雪の夜が心温まるひと時となる。

キャラバン一行は翌日、田上キヨ子さん宅、エベコロベツ自給の村、角瀬洋さん宅を訪ね、吹雪の中を無事帰旭する。〈息白く「きよしこのよる」うたひけり わぶん〉

▽札幌キリスト教会

二月八日、バイブルサンデーを覚え、贈呈用新約聖書購入のため当日の信施が献げられました。一五日、植松主教様の巡回の下、井上千里さんが堅信の恵みに、奥村真佑さん、柳原照子さんが、洗礼・堅信の恵みにあずかりました。二四日、クリスマス・イブ礼拝には約二〇〇人が集い、主のご降誕を祝いました。聖劇ではイエス様役は例年人形ですが、今年は生後四ヶ月の館石七生(なお)ちゃんが、母しおりさん(マリア)と父健生さん(ヨセフ)に守られて奉仕。二五日、降誕日の礼拝と祝会も厳粛に楽しく祝いました。

▽札幌聖ミカエル教会

二月八日の主教巡回日、テレサ宮崎野永さん、ニコル石渡秀子さん、ヨセフ沼辺剛さん、セシリア井上房子さん、シモン杉野皓海さん五名の洗礼、堅信式。大きな喜びに包まれる。札幌市内、観測史上初の積雪ゼロのクリスマスを迎える。一九日の幼稚園クリスマス礼拝、降誕劇に始まり、

一五日は中高生会、二一日は日曜学校。そして二二日に総員礼拝とイブ礼拝、どちらも一三〇名の出席。年末の三〇日、ミカエラ出町のぶさんが急逝。驚きと悲しみが広がりました。主にある平安とご家族に慰めを祈ります。悲嘆を乗り越えて希望あふれる一年となりますように。

▽苫小牧聖ルカ教会

雪の樽前山と、アンバランスな街中に、たんぽぽの花が見られる二月。一四日(土) 聖ルカ幼稚園のクリスマスが聖劇も含め、文化会館で行われました。一四日は、シーフェアラーズセンターでもクリスマスパーティーが行われました。一五日(日) 聖ルカ味噌のバック詰めを行いました。二二日(日) は前日の雪でホワイト・クリスマスとなりました。幼稚園ホールで元気な子どもたちと共に、祝会が行われました。

庭のイルミネーションがただやかな聖夜を祝福していました。

▽新札幌聖ニコラス教会

一日、礼拝後に初めての試みとして「リードオルガンと絵本の読み聞かせ」を開催。地域の子ども含めて二七名の参加を得る。七日は毎年北星学園女子中高ハンドベルクワイアによるクリスマスチャリティコンサートを開催。約五〇名の心を楽ませる。集められた献金は仙台釜石で働く「釜石支援センター望」にお捧げする。

▽函館聖ヨハネ教会

一日ミニバザー。一五日中午後キングスカレッジ・クリスマスキャロル鑑賞会。二二日クリスマス祝会。二四日セント・ジョーンズ・バー(一三時~一七時)、キャンドルサービス(一八時三〇分)：と一二月の行事は順調に行われました。

二〇日ソフィア市川登美子姉、二三日エウニケ高村セツ姉が召されました。

ご家族の心の平安をお祈り申し上げます。寒波来襲のニュースが飛び込んできた年末の函館ですが、積雪はほとんど無く雨混じりの雪で気温六度と異常気象です。

▽網走聖ペテロ教会

八日飯野司祭司式説教で、午後定例委員会。司祭は来年の手術治療に向け、準備治療で入院しイブに退院。応援でクリスマスに主様が来られました。お帰り時刻間近迄祝会にも参加して下さり、感謝でした。大阪の林義人さんの電気工事で、松をライトアップ。礼拝前に取れなかった物置きを取っ手も瀧口兄修理。祝会の出し物ファミリーホームのミーちゃんとまゆみさんの二重奏は、とても素敵でした。飯野司祭は少しずつ、回復に向かわれています。降誕後第一主日みことばの礼拝。

▽有珠聖公会

二月二一日(土) 札幌よりS・クラリネット・クワイヤー札幌の皆さんをお招きしクリスマスコンサート。一〇名のクラリネット奏者の合奏

は、満堂の二二〇名を魅了しました。コンサートの後、来訪下さった植松主教ご夫妻を囲んで夕食会を開催、楽しい一時を過ごしました。翌日の二二日(日)には、植松主教様の司式・説教で聖餐式が捧げられました。前日のコンサートに来て下さった五名の近隣の方も礼拝に加わり、賑やかに主のご降誕をお祝いました。

▽留萌キリスト教会

雪が極端に少ない冬です。穏やかな天気が続いていました。しかし突然イブの朝から吹雪が始まり、心配が募りました。今年は天国へ旅立った信徒や教友が多く、クリスマスの準備は暗中模索。そんな中、嬉しいことに寧楽の協働学舎から一〇名のお客様。なんと礼拝のハシゴ計画で、この礼拝後はカトリックの礼拝への大移動を見送りました。ミニ・バザーに、ギターとトランペットを含めたデュオ演奏に千葉雅子さんの歌も加わって、楽しい祝会でした。総勢四二名の聖夜に感謝です。

▽深川聖三教会

一二月一日教会報発送作業を委員全員でする。この日から保育園ではクリスマス待望の暦・アドベント・カレンダーを毎日二四日までめぐり始める。一八日保育園の礼拝のお話で、聖ニコラスの故事にちなみ子ども全員のくつしたをつるし、金貨をくつしたから発見する聖劇をする。二四日保育園のクリスマスお祝い会。二二日教会はクリスマスマスの礼拝をする。二四日クリスマス・イブ礼拝。保育園の先生多数出席、歓迎す。大西倫子さんから手作りのお米とあんこの粒風クリスマス・ケーキを頂く、感謝。

▽平取聖公会

平取のクリスマス礼拝は一二月二四日の夜に捧げられました。出席は九名でした。ローマ教皇の来日のお話から始まって、イエスの誕生が如何に人類にとって大切であり、必要なことであったかを伝えて頂きました。

バチラーがアイヌ伝道を志し、CMSの宣教師に認められ、アイヌ語を学ぶために平

取のペンリウク宅に逗留した一八七九年(明治一二年)を起点として一四〇年になり、一〇月に記念礼拝をしました。

平取の地で一四〇年間礼拝が捧げられて来た事と、大正期の幼稚園、戦後から七〇年の保育園運営に、改めて感謝出来た礼拝でもありました。

▽紋別聖マリヤ教会

今のところ除雪の心配がいらない紋別ですが、着実に寒い冬に向かっていると感じられる今日この頃です。一四日、幼稚園のクリスマス発表会が市民会館で行われ、その姿に目頭が熱くなるのを禁じえないほどの成長が見られ感謝でした。二二日、教会では「子どもといっしょに捧げるクリスマス礼拝」が行われ、園児とその保護者など総勢三四名で礼拝をお捧げできました。

お祝い会では、即興子ども聖歌隊の歌や、サンタさんからのプレゼントで、素敵な交わりの時となりました。

▽今金インマヌエル教会

一二月八日、堅信受領者総会に向け、教会委員会が行わ

れました。その後降臨節第二主日の礼拝を守る。感謝。

二五日は、小さな教会が狭く感じる一九名の降臨日礼拝が行われました。今年の祝会は藤井先生のターキー。直さんの杏仁豆腐とシフォンケーキそれに愛ちゃん、大義君、佳音ちゃんがクリームとイチゴを飾り付け。天沼久美子姉が飯寿司。山崎初子姉の漬物

とご馳走が並びました。プレゼント交換で罰ゲーム付のメーク。結構皆さん楽しんだのでは?メークのまま帰路につく。

▽北見聖ヤコブ教会

湯沸かし器やコピー機が新しくなり、快適に使用しています。司祭はYMCAの二回のクリスマスや網走刑務所の教誨の合間に一九日入院、二〇日消化管バルーン拡張手術をし二四日に退院しています。

クリスマス礼拝は二九日に主教夫妻をお迎えして二〇名で行われ、礼拝後は短い時間でしたが、美味しいお食事をいただきましたながら、楽しい時を過ごしました。

雪らしい雪はまだなのですが、たまに冷え込むようになりしたので、「水落とし」をすでにしています。

▽室蘭聖マタイ教会

一二月は室蘭地方としては例年より寒い気がします。一日、一五日藤井兄によるみ言葉の礼拝。礼拝後クリスマスツリー、馬小屋を飾り、クリスマスが近づいたと実感する。

八日吉野司祭により聖餐の恵みに与る。二二日礼拝後大掃除。教会の電話はあまり使用しないので取り外すことにする。

二三日主のご降誕を祝う聖餐式と祝会。お弁当と差し入れの練漬け、アップルパイをいただく。東京の福島姉も来会。共に祈り祝う。

二九日の礼拝はお休みになりました。感謝。

▽聖マーガレット教会

一二月一五日(日)降臨節第三主日。聖餐式後の午後一時一五分より「子どもクリスマス」を行う。礼拝堂にて祈りのときを持ち、今年、メインのプログラムとして絵本

『へいしのなみだ』の読み聞かせを行う。プロジェクターからスクリーンに映し出された絵の迫力と語りがクリスマスメッセージを際立たせた。祝会はネビル館にて、寸劇あり、ビンゴゲームあり、サンタさんのプレゼントありと、盛りだくさんの楽しい時間。地域の家族単位での参加者があり嬉しく思う。

今年の教区聖歌について

四七〇番「人の目には、すべなし」と決定させて頂きました。み言葉の背景としては、当時の南ユダは、エジプトの保護の元、敵に立ち向かおうとしました。それは即ち、軍事力に頼る心であり、神以外のものに頼ろうとする心でありました。彼らは神の言葉を無視して、かつての荒野での四〇年の出来事を思い起こすことなく、目の前の「力」に頼ろうとしたのです。その民に対してイザヤは「立ち帰れ」と、そして主に信頼を置きなさいとイザヤが説いたのです。現代と繋がるところも多いです。この聖歌は「信仰」のカテゴリーではありますが、「信仰」の元の意味は「信頼」というところから。また、折り返しの「われは信す。主、必ず…」等の歌いやすさも考慮しました。教会での諸集会・礼拝、また個人でこの聖歌を歌いあげ、御国へと歩んで参りましょう。教区礼拝委員会 司祭 グレゴリー 松井新世